



日本中央競馬会  
特別振興資金助成事業

海外の主な豚肉輸出国は  
すでに清浄化しています

# オーエスキー病清浄化のために

生産者、関係者の取組で  
清浄化が大きく前進しています

清浄化が  
できれば、  
全国・地域の  
生産者は安心

ワクチン接種を  
やめられれば手間も減り  
豚のストレスも軽減、  
生産性も向上

きれいな  
豚の導入、  
野外抗体陽性豚の  
とう汰をしていけば  
農場は清浄化

ワクチンを  
きちんと打てば  
ウイルスの動きは  
ストップ

清浄化まで  
あと一歩!

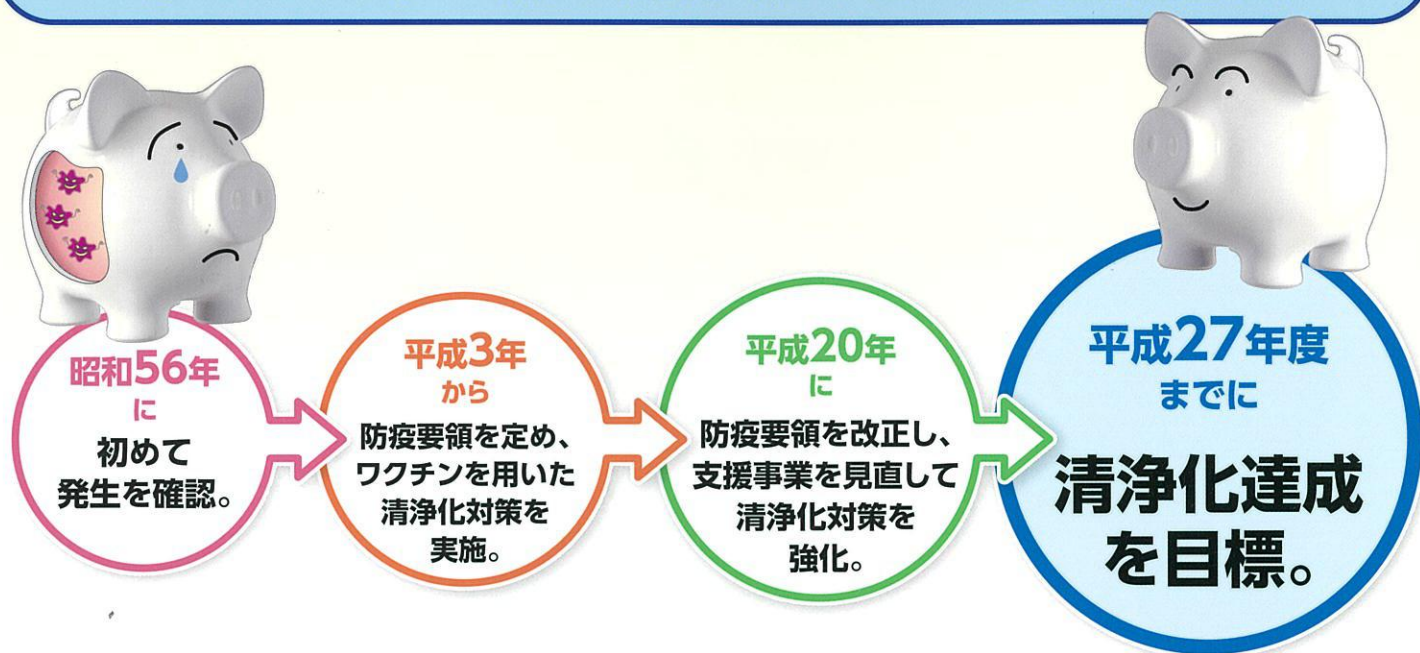
平成25年度

公益社団法人 中央畜産会

# オーエスキー病とは

ウイルスを原因とした病気です。感染すると異常産や子豚の死亡により生産性が低下します。(感染した豚は生涯ウイルスを持ち続け、新たな感染のもとになります。)

## オーエスキー病の清浄化の歩みと達成目標



## 清浄化達成の意義

- 1 ワクチン接種の費用・手間が省け、豚の接種ストレスも少なくなり生産性が向上します。
- 2 死流産等の直接的な被害が無くなります。また、衛生管理の徹底により病気が減り、生産性が向上します。
- 3 国産豚肉に対する消費者の信頼性が確保できます。

### 豚肉輸出量の多い国では清浄化を達成

発生があった国		清浄化を達成した年度
アメリカ		2004年
EU	イギリス	1987年
	デンマーク	1991年
	ドイツ	2000年
	オランダ	2004年
	フランス	2010年(最終発生)

(発生がない国:カナダ、チリなど)

日本でも清浄化  
できます



# オーエスキー病の浸潤地域

現在11県ある浸潤県の中でも直近の検査結果で実際にウイルス感染が確認されている地域は限られています。

平成25年8月21日現在

浸潤県  
(清浄化取組)  
11県

- 東北(2県)  
宮城県、福島県
- 関東(7県)  
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、  
千葉県、神奈川県、山梨県
- 九州(2県)  
宮崎県、鹿児島県

東北(宮城)

関東  
(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉)

九州  
(宮崎・鹿児島)

野外抗体陽性70市町村

うち繁殖豚のみ陽性 35市町村

※繁殖豚のみ陽性の農場は、農場内でのウイルスの動きがコントロールされており、陽性豚の更新により、速やかに清浄化が可能となります。

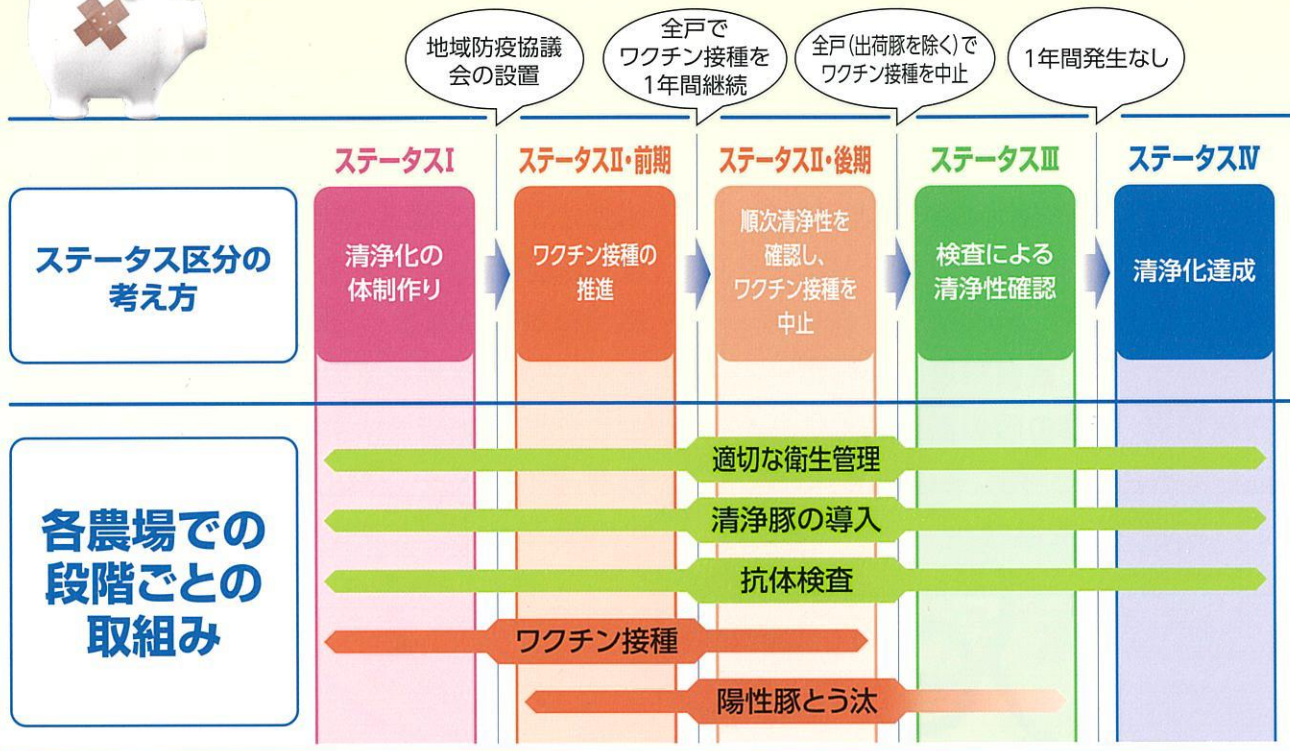
清浄化まであと一歩!

安心してワクチンが止められるよう、足並みを揃えて清浄化に取り組みましょう!

○福島県・神奈川県・山梨県では野外抗体が確認されていません

# オーエスキー病清浄化の進め方

清浄化対策の進捗状況に合わせたステータス区分を設定し、地域の状況に応じた対策を推進しています。



## 日本のオーエスキー病ステータス区分

平成25年8月21日現在

都道府県	地域区分数	清浄化段階(ステータス)毎の地域数				
		I	II・前期	II・後期	III	IV
全国	972	0	70	255	86	561
浸潤県(11県)	745	0(0.0%)	70(9.4%)	255(34.2%)	86(11.5%)	334(44.8%)
東北地方	129	0(0.0%)	0(0.0%)	13(10.1%)	3(2.3%)	113(87.6%)
宮城	59	0	0	9	3	47
福島	70	0	0	4	0	66
関東地方	366	0(0.0%)	44(12.0%)	145(39.6%)	56(15.3%)	121(33.1%)
茨城	74	0	8	28	27	11
栃木	86	0	0	62	4	20
群馬	58	0	6	18	14	20
埼玉	40	0	22	10	7	1
千葉	79	0	8	17	4	50
神奈川	26	0	0	9	0	17
山梨	3	0	0	1	0	2
九州地方	250	0(0.0%)	26(10.4%)	97(38.8%)	27(10.8%)	100(40.0%)
宮崎	85	0	0	42	14	29
鹿児島	165	0	26	55	13	71
清浄県(36都道府県)	227	0	0	0	0	227

注) 地域によっては市町村を細かく分けてステータス区分を設定しています。

# 清浄化の取組事例

## (清浄化達成の事例)

### 青森県

平成2年に初発生。平成18年から、**抗体検査の拡充**や**生産者の積極的参加**による**清浄化体制の構築**など、**地域における対策を実施**。ワクチン中止に対する不安は、抗体陽性農場での**集中的な検査**、**家畜市場利用者等の実態調査**、**移動の際の衛生管理の徹底**をすることで解消。その結果、平成23年に**清浄化を達成**。

### 熊本県

**オーエスキー病防疫協議会を設置**し、家畜保健衛生所は疫学調査、採血、抗体検査、自衛防疫協議会はワクチン購入、市町はワクチン接種の助成、獣医師会はワクチン接種、県地域振興局は環境整備等の推進と、**支援組織の役割を明確化**。ワクチン接種を進める中で、様々な問題が生じたが、**家畜保健衛生所の粘り強い指導**と、**農場、獣医師等の理解**により、**事業を継続**。その結果、平成22年に**清浄化を達成**。



## (清浄化推進取組の事例)

### 茨城県

養豚密集地域の生産者自らがAD清浄化を切望。**清浄化による生産性向上事例をきっかけに**、地域に**清浄化の気運が高まる**。家畜保健衛生所は約100戸の農場を清浄農場、+農場(繁殖豚のみ抗体陽性)、++農場(繁殖豚・肥育豚で抗体陽性)の清浄豚のステージ別に区分し、第1段階として農場の現状把握と**ワクチン接種適期の継続指導**で、**肥育豚の清浄化を推進**。今後**繁殖豚の陽性率が低い農場の全頭検査**で、**陽性豚の早期更新**に取組む。

### 鹿児島県

行政の指導で、系列も違う団地内農場が**協議会を組織**。平成9年に繁殖候補豚の**抗体陽性率が68%**であったが、**ワクチン全頭接種**、**繁殖候補豚の陰性確認**を実施し、現在、高産歴の豚のみの**2%にまで減少**。管理獣医師、薬品会社獣医師などの協力も得て、**全頭検査による陽性豚の更新**に着手。

# 清浄化の取組への支援

(平成25年度家畜生産農場清浄化支援対策事業)

## 清浄化対策のポイント

感染した豚は生涯ウイルスを持ち続けます。

ワクチン接種でウイルスの動きを抑えながら計画的に豚を更新していきます。

基本疾病対策の実施	適切な衛生管理。
ワクチン接種	適切な時期に適切な接種量を確実に筋肉内に投与。 (適切な接種によりウイルスの動きを抑えることができます。)
清浄豚の導入	導入元の清浄性を確認、繁殖豚は陰性証明を確認。
抗体検査	野外抗体陽性(=ウイルスを持っている)の豚を把握し、的確な対策を実施。
陽性繁殖豚更新	ウイルスを持っている野外抗体陽性豚はなるべく早く更新。

## 支援対策の主な内容

AD  
浸潤  
地域

①ワクチン  
全頭接種

支援策①

ワクチン接種費補助  
1頭当たり 38 円以内

②抗体検査による  
清浄性確認

支援策②

検査費用の 1/2 補助  
獣医師による採材費は定額補助

③野外抗体陽性豚の  
とう汰

支援策③

感染繁殖豚の淘汰補助  
※1頭当たり最大 24,000 円

- ①一定の条件のもとで、野外抗体陽性の繁殖豚を自主淘汰した場合：最大16,000円
- ②ステータスⅡ後期の地域に所属し、野外抗体陽性豚を一定期間内に全頭淘汰した場合：最大8,000円

清浄化  
達成!

詳しくは最寄りの家畜保健衛生所へご相談ください。

多くの農場で清浄化を実現しており、  
きちんとした取組で清浄化が達成可能です。

頑張りましょう!